

☆学習会の趣旨・学習目標☆

近年では社会福祉制度の整備、拡大だけにとどまらず社会福祉サービスの質の向上が急務となってきている。

対人援助においても重要視されており援助者自身にもより高度な技量、専門性を備えた対人援助の展開が期待されている。

一般に対人援助の場面では「受容」「傾聴」「共感」が基本姿勢であり重要だとされているが、それを実践することは容易ではない。その理由として一口に対人援助と言ってもその対象や問題は多岐にわたるもので且つクライアントや援助者各々の価値観も一致しているとは限らないからである。時にはクライアントと自己の価値観との相違に葛藤することもあるであろう。そのような場面においても援助者は常に専門職としての共通の価値、倫理を意識しながら対人援助を進めていく必要があると考える。

地域学習会を通して相談援助場面における「受容」と「傾聴」についてロールプレイング等の演習を取り入れながらより実践的に理解を深めていくと共に、参加者が各々の持つ価値、倫理を改めて見つめ直し「受容」と「傾聴」の重要性、また価値、倫理との関係性についても考える機会にしていきたい。

☆本日のプログラム☆

9:00～ 9:30	受付
9:30～10:30	講義（担当：青木先生）
10:30～10:40	休憩
10:40～12:10	講義・演習（担当：小松尾先生）
12:10～13:00	休憩・食事
13:00～16:00	演習（グループワーク・ロールプレイ）
16:00～16:30	講義
	質疑応答・総評（担当：青木先生）
16:30～17:00	後片付け
17:00	終了
17:30～19:30	交流会（詳細は10ページ参照）

（当日の進行等により変更になる場合があります）



☆講師の先生から一言☆

＜青木聖久先生＞

大阪の地での素敵な出会いを期待して 青木聖久

大阪地域学習会の開催にあたり、心よりお祝い申し上げます。私は、ひとりの人間が有する歴史と社会的背景には、大変な重みがあると思っています。人は、これらの事柄を通して、固有の価値観や思想を身につけるのではないのでしょうか。ある人は、気持ちがどん底に落ちていたとき、優しく肩をたたいてもらった経験が自分の財産になっている、と言います。その彼は、優しくされたバトンを誰かに渡したくて、人の話に耳を傾け、我がことのように一緒に悩み・考えると言います。さて、今回の学習会のテーマである「受容と傾聴」は、参加される皆さんの人生経験と無関係ではないと思います。私のモットーは、「自分が開くと周囲も開く」です。まずは、だまされたと思って、自己開示から始めてください。でも、そのように皆さんが思えるようになるためにも、私たち教員は、精一杯環境づくりに取り組みたいと思っています。皆さんにとって研修会が、安全で・安心でき・ほっとでき・わくわくするような場になるように、全力で取り組みます。若輩者ですが、何卒よろしくお願い申し上げます。

＜小松尾京子先生＞ 地域学習会メッセージ

みなさん、こんにちは。

実習センター教員の小松尾京子です。

はるか昔に、日本福祉大学を卒業後、身体障害者療護施設の生活相談員を皮切りに、さまざまな現場経験を積んできました。そんな中、ただ単に現場経験を積むだけではだめだという思いが出てきて、現場のワーカーさんや介護支援専門員等の研修会に関わるようになりました。縁あって、日本福祉大学の巡回指導や相談援助演習等の非常勤講師の仕事をお手伝いすることになり、2年前の2010年4月に日本福祉大学に赴任しました。

専門は対人援助論です。これは得意だからではなく、面接がうまくできず現場でいろいろな思いをして、その結果、対人援助を極めることが大事だと思ったからです。援助とは何をどうすることか、どのように実践するのか、教員となった今も、一番のテーマです。

今回の地域学習会では、その対人援助技術の中でも、「受容と傾聴」がテーマですのでとても楽しみにしています。ぜひ一緒に「受容と傾聴」について、学びを深めましょう。

＜大野喜朗先生＞ こんにちは。学習指導講師の大野です。

傾聴、受容はソーシャルワークの基本であり、もっと広く言うと対人援助の基本と言ってよいと思います。しかし、なかなかこれが難しい。手ごわい。しているつもりが、全然なっていないかったりする。そして、気付かないまま、改善できないままに、面接を繰り返していたりする。私はソーシャルワーカーとして10年ほどの経験がありますが、最初の数年間の面接はというと、意気込みはあったとしても、内容・出来としては、正直言って思い出すと恥ずかしくなります。

少しはまともな面接をしようと思えば、ポイントは大きくはふたつあげられるのではないかと思います。ひとつは価値。ひとつは経験＝スキル（＝は結合の意）。このあたり、きっと当日におおいに学ぶことができるだろうと期待を大きくしています。